

玖島の史跡・名勝を知ろう

○ 名勝「大峰山」

標高 1049.8m、頂上は六畳岩、八畳岩など巨岩群で形成されており、肝を冷やしながら鏝状の岩場をまわる「まわり縁」の奇勝や山上付近から湧き出ている名水「長名水」があります。「芸藩通誌」には「大峰山、玖島村の西北にありて虫所山、多田、白砂およそ四村にわたる高山大麓、近方に比なし、山頂老樹怪石あり」とあります。登山道としては川上登山道が一般的で、春には山開きとして大峰まつりが登山口で行われます。廿日市市の名勝に指定されています。

○ 上川上の六地藏　廿日市市指定重要文化財

地藏堂は木造の古堂で棟札に天明5（1785）年の再建とあり、木造彩色の6体の地藏立像が納められています。この地藏尊の台座銘には「奉謹造立本尊阿弥陀如来六地藏尊」、そしてその左脇に「文明十六年甲辰四月八日」（1484年）と記されており、500年余を経た木造地藏尊としては佐伯地域最古のものと思われます。

○ 七尋淵

大峰山の清水を集めて流れる玖島川。その上流、川上地区の大峰山登山口近くにあります。一尋は約 1.8mで、以前は水深 10m余もあったということです。その頃は一年中、豊富な清流がしぶきをあげて清流の女王ヤマメなどが泳いでいましたが、いまは水害などで土や石が流れ込み浅くなり、昔の面影はなくなっています。

○ 平谷の朴の木　廿日市市指定天然記念物

中国自然歩道指定ルートの平谷～川上間の旧街道、この街道の平谷側の入口を入ると、すぐに藤かずらを複雑に絡ませた大きな朴の木が自生しています。樹高約 20m、胸高周囲 2.9mと、朴の木としてはまれに見る巨木です（現在は台風の強風で折れて樹高は 10mくらいである）。この朴の木に絡みつく藤かずらも太い箇所では 95 cmの周囲をもち、大蛇のごとく幹や枝に絡みついて共生しています。

○ 佐伯歴史民俗資料館

佐伯地域の歴史的・文化的な遺物や書籍など、なかでも代表的なものは広島県重要文化財指定の小田家文書が収納されています。また、古くから使われていた農機具や日常の生活用品などが収集され、保管されています。玄関に入ったホールには玖島に縁のあった被爆作家太田洋子の写真や執筆原稿などが展示されています。開館は水・土・日曜日の 10 時から 16 時になっています。

○ 八田家長屋門及び米蔵

文政 10 年（1827 年）に建てられた長屋門は、瓦葺き平屋建て（長屋は 2 階建て）で、一部檜造りの豪壮なものです。米蔵は梁間 8 m桁行 20mの 2 階造りの大規模なもので昔の地主の様子がかがわれ、歴史の史料としても貴重なものです。長屋門の柱には、なたか斧で切りつけた疵痕があります。これは明治 4 年武一騒動のときのものといわれています。廿日市市の史跡に指定されています。

○ 郷土ゆかりの女流作家「大田洋子」

大田洋子は原爆文学の領域を拓いた小説家です。7 歳のとき両親が離婚し、9 歳のとき、母トミが再婚し、佐伯郡玖島村吉末に移り住む。洋子は玖島尋常高等小学校尋常科（5 年生）に転校し、母親とともに 15 歳まで玖島にて生活する。

広島で被爆後、玖島に避難して代表作「屍の街」を松本商店（現在の夢工房）において脱稿する。他の作品として、「人間襤褸」「瑠璃の岸」「櫻の国」「海女」などがあります。

○ 大獄峠と大沢馬観音

玖島・大沢バス停から林道大沢線を南東に上がっていくと馬観音があり、続いて「厄よけ観音」の小さな祠に出会います。ここから南に伸びた林道（現在は通行できない）を登りきると、廿日市原地区との境となる「大獄峠」にたどりつきます。

この峠は、かつての主要道として原の川末地区から大峰山の柏木峠や吉和を経て石見方面へ通じていました。大獄峠は「七曲り」の難所として荷を運ぶ牛馬が次々と屍と化したと言い伝えられており、林道大沢線沿いにある馬観音は牛馬の供養の為に建てられたものです。馬観音は玖島を通る旧街道の各地に点在しています。

○ 勁操園

明治 28 年、玖島の八田家が築いたもので面積約 2300 m²の三角形の地に、山水をあしらい、背景に大峰山を配した大庭園です。中央には三代目八田新七の業績を称えて明治 27 年に建立された高さ 6 mの記念碑があります。巖谷一六の書による「原野を開き、江海をうずめ、農桑をすすめ、山林に力を尽くし、毎年植木苗を培うこと十有余」と新七翁の功績を記した碑文と県知事浅野長勳の筆による碑銘が刻まれています。廿日市市の名勝に指定されています。

○ 御幸山神社

佐伯郡誌には「村社　玖島村楢原に在り御年神、豊受姫神を祀る。本村元大小数多くの社祠ありしが明治 42 年 12 月字大町八幡宮を除き、他は全部当社に合併せり」とあります。国の政策により明治 42 年小祠の大合併が行われ、玖島村の村社となり、出征兵士の出陣式などが行われました。戦後、村社等の制が廃されてからは楢原・泉水地区の社となりました。

○ 正善寺薬師如来像の脇仏

正善寺ははじめ禪宗であったが、元和年中ころ真宗に改宗されました。境内にある薬師堂には薬師如来像の脇仏（立像）が安置されています。明治頃、薬師如来像は能美島鹿川の勝善寺に移されました。如来像と脇仏は禪宗寺院であったときのもので、改宗のとき薬師堂を建てそこに安置し、本堂には阿弥陀如来像が安置されました。

木像の脇仏は舟型光背から半肉彫りに彫りだされています。一木造りで全長 144 c m。室町時代中期のものと推定され、損傷もはなはだしい。

○ 大町八幡神社

「紙本墨書　芸州佐伯郡寺社」（1715 年）に「大町　八幡宮老社　右応安弍年己酉八月廿一日宇佐八幡勧請申造立仕候由申伝候其外由来縁起無御座候同年数三百五拾年程に相成候」とあり、歴史的には玖島で最も古い寺社と思われます。また、棟札には天正 3 年、寛文 13 年、明治 26 年のものがあり、天正 3 年のものは玖島で最も古い棟札です。

玖島の史跡めぐり



玖島神楽団の練習風景

